
あなたを覚えてしまった(SH)

さなぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたを覚えてしまった（SH）

【Nコード】

N2610I

【作者名】

さなぎ

【あらすじ】

（Sound Horizon二次創作小説&お題小説です）

アメテイストスの部下・オルフは閣下の妹、ミーシャの話を聞くうちに会ったこともないミーシャに恋をしてしまう。

ひたすら閣下がノロケてます（笑）

（企画サイト様提出作品）

(前書き)

S
o
u
n
d
H
o
r
i
z
o
n
ア
ル
バ
ム
「
M
o
i
r
a
」
二
次
創
作
小
説

「私には世界一可愛い妹がいるんだ」

そう言つて閣下は毎回自慢話を始める。

閣下の双子の妹について。

正直、もう何回この話を聞いたか分からない。

その位、閣下は彼女について話していた。

「オルフ、聞いているのか？」

私が今までどの位この話を聞かされていたか思い返していると、相槌を打たない私を怪訝に思ったのか、そう訊いてきた。

「はい、閣下。聞いていますよ」

そう言つて閣下を安心させる。

戦いとなると極悪無慈悲の鬼となる閣下も、妹の話となると一変して純粋な子供のようになるのだ。

閣下は穏やかな夜風にその銀髪を靡かせ、楽しそうに話を続けた。

「ミーシャはとても可愛くてな……」

閣下の自慢話は毎回、彼女のその可愛さから始まる。

彼女の可愛い仕草。

優しくて純粋な性格。

思ったことがすぐに顔に出るため、コロコロ変わるといふ表情。

その閣下の弾むような喋り方からして、本当に彼女のことが大好き

なことが分かる。

私は視線を横にずらし、閣下の横顔を見た。

そこには幾多の戦いを乗り越えてきたとは思えぬ整った横顔があった。

透き通るような白い肌にスラリと伸びた鼻梁。

普段は男らしさを覗かせるその双眸は、今は細められどこか遠くを優しく眺めている。

夜風に靡く銀髪はキラキラと輝き、紅紫のメッシュがそれを一際飾り立てていた。

「ミーシャは料理も上手でな……」

私がじっと見つめているのも気づかずに閣下は話を続ける。

双子、というくらいなのだから彼女は閣下にそっくりなのだろうか。彼女の美しいであろう顔を思い浮かべる。

「何故双子なのにこんなにも違うのだろうかと思ったこともしばしばあったよ」

まるで心の中を読んだかのようなタイミングで、閣下が彼女のその容姿について話し出す。

今まで楽しそうだった声音は段々と憂いを含んだものになっていく。

「私とは比べ物にならないくらい可愛かったよ」

そこで、閣下は急に言葉を切った。

閣下の話を聞いている間、まるで目の前にいるかの様に浮かんでいた彼女の姿が急に掻き消えてしまう。私は閣下の次の言葉を静かに待った。

何を言うのか、既に分かっていたけれど。

「逢いたい……」

閣下はそう言つて、より一層、その双眸を細めた。

私も閣下の視線を辿つて、遠くを見つめる。

その視線の先では、ただ淡い光を放つ満月が空に浮かんでいるだけだった。

「さて、そろそろ中に戻ろうか」

そう言つと閣下は腰を浮かせて、私が立つのも待たずにスタスタと歩いていつてしまった。

私はその小さくなつていく背中をそつと見つめた。

暫くして閣下の姿が見えなくなると、私はゆっくりと息を吐き出す。そしてもう一度空に浮かんだ月を見上げると、腰を浮かせて閣下の消えた方向へ歩き出した。

閣下はまだ知らない。

閣下のその願いが、いつしか私の願いにもなっていることを――

可愛い仕草。

優しくて純粋な性格。

思ったことがすぐに顔に出るため、コロコロ変わるといふ表情。
透き通るような、それでいてまだ無垢さを備えたその声。

輝く銀髪。

また、それを更に際立たせる紅紫のメッシュ。

儚さを感じさせる白い肌。

そして、その強さを湛えているであろう瞳。

まだ会ったことのない相手に想いを馳せながら、私はただ歩を進めていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2610i/>

あなたを覚えてしまった(SH)

2010年12月28日03時06分発行